

ファクシミリ PSC (PSC 番号 : AH)

2002.11.14

注) この基準は、エコリーフプログラム実施用に作成されたものです。無断で、一部又は全部を、他の目的で使用することを禁止致します。

No.	大項目	中項目	小項目	取り決め事項
1	PSC 設定の前提	製品	定義	ファクシミリは家庭、オフィスなどで汎用に使用する通信機で、適用技術が感熱・熱転写方式（以下 SP と記す）、インジェット方式（以下 IJ と記す）及び電子写真方式（以下 EP と記す）のモノクロ、カラープリント方式を対象とする。
2			範囲	最小販売単位（個包装と個装箱）に含まれる本体と包装一式。 但し、上記形態で製品機能が満たされない場合は、別途機能を満たす機器を含めること。
3		ステージ	範囲	全ライフサイクルステージを対象とする。
4	製品データシート (LCI 入力データ)	製造ステージ情報 (製品情報)	製品材料 または 原料構成	<p>1) 部品等 A (実施ガイドライン “ 3 . 4 項 ” 参照) に区分するものは、下記のものとする。</p> <p><u>SP プリントの場合</u> 感熱；感熱ヘッド、感熱紙 但し、感熱紙は、感熱処理加工エネルギーのデータを収集する。 熱転写；感熱ヘッド、インクリボン</p> <p><u>EP プリントの場合</u> 感光体； 但し、 1. 素管の加工は、 ・ 自社で収集した加工エネルギーのデータを使用する。（自社でデータが取れる場合） ・ 自社でデータが取れない場合は No.14 参照。 2. 素管以降塗布までの加工は、自社で収集した加工エネルギーのデータを使用。</p> <p>トナー； 但し、加工は、自社で収集した加工エネルギーのデータを使う。</p> <p>キャリア； 但し、上記トナーと同様の条件付とする。</p> <p><u>IJ プリントの場合</u> プリントヘッド； 但し、加工は自社で収集した加工エネルギーのデータを使用する。</p> <p>インク； 但し、 1. インクの組成は、全て水として扱い、「水」の原単位を使うこととするが、個別原単位の使用を制限するものではない。 2. 加工は、自社で収集した加工エネルギーのデータを使う。</p> <p>部品等 A の素材は、MSDS の材料レベルまで遡る。</p> <p>2) 資源投入量は製品となった段階の材料質量とし、製品質量の 90% 以上の材料を種類別に分類、残りは比例配分し 100% 換算する。</p> <p>3) 製品データシートに記載する材料名は、“普通鋼、SUS、アルミニウム、その他金属、熱可塑性樹脂、熱硬化性樹脂、ゴム、ガラス、紙、半導体基板、木材、水” の 12 項目とする。この 12 項目以外のものは原単位数を記載する。</p>
5			製造ステージ情報 (製造サイト情報)	投入・消費・排出される物質とエネルギー
6	物流ステージ情報	製品の輸送条件	<p>1) ユーザーまでの輸送手段、積載率は、申請各社が設定するモデルに基づくこととする。</p> <p>2) 国内輸送距離 (使用場所までの輸送) は、100 km として算定することとする。 海外から国内への製品輸送負荷は、製造サイトからの陸上および海上輸送負荷を計上する。</p> <p>3) 本体の包装の廃棄・リサイクルは、No. 8 の「廃棄・リサイクル」に入れる。</p>	

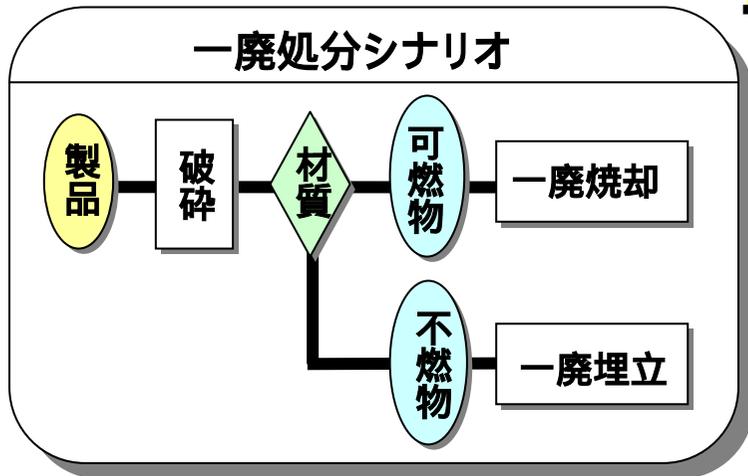
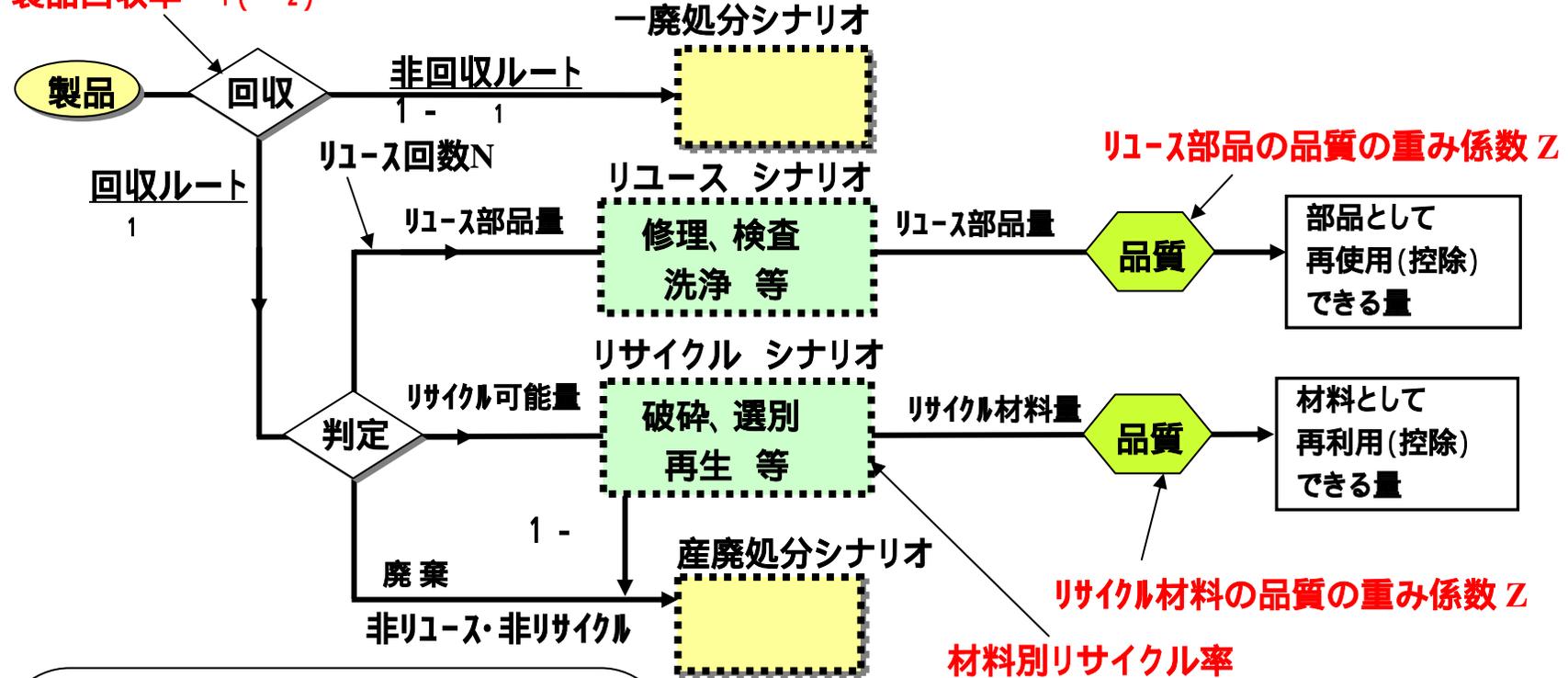
No.	大項目	中項目	小項目	取り決め事項
7		使用ステージ情報	製品の使用条件	<p>1) 使用条件 パーソナル用機種の場合 標準原稿はA4チャートで業界通称I T U T - N o . 1チャート又は黒率3%以上の原稿とする。 送信15枚/月、受信15枚/月とする。使用期間は5年間とする。 但し、使用時以外は、24時間通電待機しているものとする。又、1年は365日とし閏年は含まない。</p> <p>ビジネス用機種の場合 標準原稿はA4チャートで業界通称I T U T - N o . 1チャート又は黒率3%以上の原稿とする。 送信5枚/時、受信5枚/時、1日8時間、1ヶ月20日間稼働とする。使用期間は5年間とする。 但し、1年365日(閏年は含まない)、5年間を想定して、使用時以外は、24時間通電待機しているものとする。</p> <p>2) 使用ステージで必要となる用紙は、負荷計上の対象には含まない。 但し、感熱紙の感熱処理加工エネルギーのデータは含めることとする。</p> <p>3) 定期交換部品、消耗品の使用個数 対象;設計時の計画、又は実績に基づく。 個数;上記に基づく使用個数(パーソナル用機種、ビジネス用機種...5年間)で、端数切り上げの整数とする。 輸送;製造サイトから使用場所までの輸送において、上記に基づくモデルを各社で設定する。</p> <p>4) 定期交換部品、消耗品の廃棄・リサイクル条件は、No. 8の「廃棄・リサイクル」に規定する。</p>
8		廃棄・リサイクルステージ情報	製品の廃棄・リサイクル条件	<p>1) シナリオの設定 別紙「使用後製品の廃棄・リサイクルシナリオ」を採用する。 1. 回収ルートは、各社で輸送を含むシナリオを設定。 ・リユースシナリオ ・リサイクルシナリオ 材料別リサイクル率()は、各社で設定する ・非リユース/非リサイクルの産廃処理シナリオ 2. 非回収ルートは、「一廃処理シナリオ」(別紙参照)を採用。</p> <p>2) 控除のシナリオ 別紙「使用後製品の廃棄・リサイクルシナリオ」を採用。</p> <p>3) リサイクル、リユース可能性の判定基準 判定基準は各社で、個別に定める。</p> <p>4) 製品、包装材、消耗品、交換部品の回収率 r_1 を採用する場合は、 パーソナル用機種は、$r_1 = 0\%$とする。 ビジネス用機種は、$r_1 = 40\%$とする。 又は、実績に基づいた値(r_2)でも良い。</p> <p>5) 製品のリユースの場合 再使用に回すための輸送を含むリユース処理負荷を加算し、当該再使用部品の素材製造負荷並びに加工負荷を控除する。(リユース処理負荷は実測を原則とする。) 各社の実績値あるいは設計値に基づき、使用期間5年を過ぎて5年単位でリユースする回数N_1を設定する。N_1は整数とする。(例、10~14年使用する部品は$N_1 = 1$、15~19年使用する部品は$N_1 = 2$) また負荷の計算は、上記N_1を使って、 部品リユースの控除量 = “リユース部品の素材製造負荷並びに加工負荷” \times “製品回収率 r_1 (又は r_2)” \times “リユース控除率$N_1 / (N_1 + 1)$” 5年以内にリユースする部品は処理負荷を計上すること。</p> <p>6) 消耗品や交換部品リユースの場合 対象品の寿命中でのリユース回数をN_2、5年間での使用個数をnとし、端数は切り上げて整数とする。 また負荷の計算は、上記N_2及びnを使って、 部品負荷 = “部品1個の製造までの負荷” \times “5年間での使用個数(n)” 部品リユースの控除量 = “各社の設計時点で計画したリユース可能量” \times “部品回収率 r_1 (又は r_2)” \times “リユース控除率$N_2 / (N_2 + 1)$” \times “5年間での使用個数(n)” リユース処理負荷 = “部品1個のリユース処理負荷” \times “部品回収率 r_1 (又は r_2)” \times “5年間での使用個数(n)”</p> <p>7) リサイクル、リユースされずに廃棄される製品又は部品の処理負荷の具体的計上方法 別紙「使用後製品の廃棄・リサイクルシナリオ」を採用。</p> <p>8) リサイクル材料、リユース部品の品質の重み係数 別紙「使用後製品の廃棄・リサイクルシナリオ」を採用。 1. リユース部品の場合・・・$Z = 1$ 2. リサイクルの場合 金属：$Z = 0.5$ ガラス：$Z = 1$ 板紙、ダンボール：$Z = 0.9$ その他：$Z = 0.35$</p>
9	製品環境情報データシート	インベントリ分析	LCI 計算式	紙木については部品等A扱いとし、加工及び組立負荷は計上しない。
10	(PEIDS)	インパクト評価	カテゴリ追加	PEIDS から「オゾン層破壊」、「光化学オキシダント」、「富栄養化」の項目を削除する。
11	内訳データシート	データ加工	アロケーション	統一せず、各社で適宜決定する。
12	(製品データシート関連)	データ収集	収集範囲	データを把握出来ない場合は、設計時又は計画時の条件を含むデータ(含む原単位)で代用しても良い。
13			カットオフルール	組立負荷等についてカットオフを適用する場合は、その旨を明記し、かつその理由を明確にする。

No.	大項目	中項目	小項目	取り決め事項
14	内訳データシート(PEIDS関連)	データベース	原単位の選定	<ul style="list-style-type: none"> 1. 各社が決めた購入部品の組立については、原単位「部品組立」を採用。 2. 感光体の素材は、原単位「A1板」を採用。 3. 酸化鉄(使用する場合)については、原単位「冷延鋼板」を採用。 4. 感光体素管の加工は、原単位「非鉄プレス」を採用。 5. インク組成は、原単位分類名「用役(水)」を採用。 6. 感熱ヘッドのセラミックスは原単位「ガラス」を採用。 なお上記原単位名は、「原単位リスト」参照。 上記は個別原単位の使用を制限するものではありません。
15			原単位の追加	なし
16			特性化係数の追加	なし
17	製品環境情報	製品仕様	<ul style="list-style-type: none"> 1. 記録方式 2. パーソナル用、ビジネス用の区分 3. 最大記録サイズ 4. 最大原稿サイズ 5. 相互交信 6. その他検証対象となる機能 	
18		データ公開内容	<ul style="list-style-type: none"> 1. 記載項目 必須項目として規定(ガイドライン)されている、「温暖化負荷、酸性化負荷、エネルギー消費量」を記載することとし、選択項目の7項目(ガイドライン)は記載自由とする。 2. 対象ライフサイクルステージ 記載自由とする。 3. 使用条件の設定 使用期間(5年間)送信枚数(枚)受信枚数(枚)を記載する。 また、使用時の用紙の環境負荷について下記を参照して記載する なお、使用ステージで必要となる用紙は、負荷計上の対象には含んでいません。 但し、感熱紙の感熱処理加工エネルギーのデータは含めています。 4. 表現方法 文章、表、グラフいずれの選択も自由とする。 	
19	その他環境関連情報	選択記載項目	当該製品に関係する下記のものを記載できる。 <ul style="list-style-type: none"> 1. タイプ および/又はタイプ の環境ラベル 2. ISO14001 認証の取得 3. 国または工業会等の認証・認定・表彰 4. 有害物質 	



使用後製品の廃棄・リサイクルシナリオ

製品回収率 $1(2)$



用語の説明

- ・「製品回収率」: 使用済製品中の回収された製品数の比
- ・「リユース回数」: 部品単位のリユース回数
- ・「品質の重み係数」: リユース、リサイクルで控除可能な比率
- ・「材料別リサイクル率」: リサイクル工程での歩留まり率
- ・「可燃物」: プラスチック、ゴム、紙、木材
- ・「不燃物」: 可燃物以外の材料